

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

6月1日号 (No.62・入梅でしょうか…号)

2011  
\*  
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞



勝手にレッドデータ of 志木 (48)

## なまず

出会いは「今見られます」という知り合いの電話からでした。

なまずは田植えの準備が整った時期、雨で増水した川から水路を登り柔らかな体を使い田んぼを目指します。夕方から数時間の間に50センチ程のなまずが大量に田んぼに入ります。多くの魚体はたどり着くまでの障害を乗り越えキズだらけです。

田んぼに入ると水面がゆらゆら揺れる程度で産卵を終えます。短い時間に何事もなかったかのように繁殖を繰り返し、再び川に戻っていくのでしょうか。普段は見る事がない、私たちの身近でたくましく生きるなまずの姿に感動しました。

(須藤敦夫)

# 2010年度の報告と2011年度の予定

代表理事 天田 眞

エコシティ志木 第9回(2011年度)総会は5月15日(日)に開催され、2010年度の事業報告・決算と2011年度の事業計画・予算が承認されました。また、理事が新たに1名加わり10名となりました。

## ●2010年度の活動報告

### ◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ：志木市の公園美化活動会制度に基づき、いろは親水公園こもれびのこみち・西原ふれあい第三公園の2か所の斜面林の日常管理(清掃、落葉掃き、下刈、伐採等)

②河川敷の清掃：彩の国リバーサポート制度に基づき、柳瀬川右岸志木中学校付近及び新河岸川右岸富士下橋付近より下流でゴミ拾い

③外来植物駆除作戦：柳瀬川高橋下流までの全域及び新河岸川右岸富士下橋下流でオオブタクサ・アレチウリの駆除作業。志木市市制施行40周年記念事業「水辺のお助け隊」に協力し、外来種問題の啓発パンフレットの制作と新河岸川いろは橋周辺で駆除作業を指導

### ◆調査、研究事業

①柳瀬川・野鳥&川の生きものウォッチング：柳瀬川及び水谷田んぼで野鳥調査、柳瀬川で魚類及び底生生物調査と水質調査

②県民参加生き物モニタリング調査：県の全県的な動植物調査に参加し、志木地区を担当

③身近な川の一斉調査：宗岡中学校科学部と市内8カ所の河川水や湧水を調査

④埼玉県内一斉ガンカモ調査：(財)埼玉県生態系保護協会志木支部の柳瀬川調査に協力

### ◆観察会及び学習・教育事業

①子どもとおとなの自然塾：春の野草、夏の魚、秋の鳴く虫、冬の渡り鳥の4回の観察会

②小学校等への講師派遣：柳瀬川での総合学習(3校)、プールのヤゴ救出(2校)、志木小エコクラブとビオトープの手入れ。その他、市内や三芳町の地域団体の魚捕り体験に協力

③ボランティア・NPO活動体験者受け入れ：社協の地域ボランティア体験応募者を受け入れ

④出前水族館等でイベントへ参加：「こどもまつり」「市制施行40周年記念事業オープニングセレモニー」「いろはふれあい祭り」「志木市民まつり」「つむじ銀杏で街合わせ」に参加し、出前水族館やポスター展示、資料配布

### ◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行：本紙とイベントカレンダーを年4回発行

②ホームページ管理：エコシティ志木のHP

③活動紹介展示：催事でのパネル展示等

◆エコツアー事業(「志木まるごと博物館 河童のつづら」プロジェクトとしての活動)

①ぶらり散歩：新河岸川ぶらり散歩(川越～新狭山、新狭山～入間市笹井堰までの2回)、志木ぶらり散歩(志木の崖線めぐり)

②惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業：宗岡及び他地域の水塚等の調査、2年間の調査の報告書『水塚の文化誌』500部の制作発行。水塚シンポジウム「惣囲堤と水塚の文化に学ぶ」の開催((財)サイサン環境保全基金の助成)

②ホームページ運営：河童のつづらのHP

以上、いずれの事業も前年からの継続や当初計画のものです。「水辺のお助け隊」は市制施行40周年記念事業の一つとして市民実行委員会が主催したのですが、当会から企画を出し全面的な協力を行いました。

水塚調査報告書『水塚の文化誌』は年度途中で助成金が決まり、発行にこぎつけました。

## ●2010年度の主な取り組み

前年度の事業は全て継続して行います。外来植物駆除作戦では、市制40周年記念事業で実行委員会から発行された『新河岸川と柳瀬川にはびこる外来植物』を当会から再版し、いろは橋付近の駆除作業を当会主催で実施します(埼玉県NPO基金に助成申請中)。また、2年間にわたり活動した水塚調査員(非会員を含む)は、今後も調査研究活動を続けることとなりました。

3/6  
(日)

## 水塚シンポジウム 「惣囲堤と水塚の文化に学ぶ」

(財)サイサン環境保全基金助成事業

当日は、会員・一般の参加者の他に志木市郷土資料館関係者や水塚所有者の方など58名の参加があり、大盛況でした。『水塚の文化誌』も発行が間に合い披露することができました。



(写真：伊藤智明)

基調講演として千葉県立関宿城博物館上席研究員・齋藤仁さんに、関東を中心とした江戸時代からの治水の歴史をお話し頂きました。最初に「洪水」と「水害」の違いについて説明がありました。現代人にとっては「洪水＝水害」と認識しがちですが、洪水によってもたらされる恵みを活用してきたかつての人々にとっては、その区別は明確であり、わたしたちもそのことをより意識的に区別して伝えていかなければならないと思いました。さらに利根川の東遷と江戸時代の大洪水、幕府の治水対策など、広く関東全域の治水についてのお話しは非常に興味深いものでした。

続いて、当会代表理事・天田により水塚調査の

報告と、宗岡地区に現存する水塚や樋門・惣囲堤など江戸時代からの治水遺構について説明がありました。

そして最後に、毛利の進行により「江戸時代からの治水遺構を次代に伝えるには」というテーマでシンポジウムを行いました。当初予定していた参加人数を大幅にオーバーしたため机の並べ替えなどが困難であり、そのまま意見交換を進めました。より多くの方にフランクに意見交流をして頂くというプログラムは採用できませんでしたが、貴重な提案がありました。

「宗岡に住んでいるが、知らなかった」とか「水塚が貴重なものであるということはよく分かるが、保存していく苦労は大変」「国の登録文化財という制度がある。エコシティ志木で応援してはどうか」「まち全体の治水遺構がある景観を文化財として指定する制度もある」などの意見がありました。

講師の齋藤さんからは「現在、これだけ多くの水塚が集中して残っている場所はめずらしい。『水塚の里』というようなコンセプトで共有できないか」という提案があり、会場から大きな拍手がわき上がりました。(毛利将範)

### 『水塚の文化誌』発行

19名の水塚調査員が2年間かけて調査した報告書『水塚の文化誌』を発行し、図書館、学校などの関連施設や会員をはじめ関係者に無料配布しました。

水塚所有者からの詳細な聞き取り調査報告とともに、堤防や樋門など、水塚とそれにまつわる文化を丁寧に紹介しています。

\*まつやま書房より販売されていますので、書店やアマゾンなどのネット書店などで購入できます(税抜き定価：1,500円)。また、会員には残部を実費1,000円で頒布しています。

\*サイサン環境保全基金(2010年度)助成事業



〈お手紙より〉文化財保護委員の内田正子さんより「このご研究、ご本が、市の貴重な宝となり、子ども達の学習、生活、生き方に役立つことに感謝いたします」という感謝のお言葉をいただきました。

### 「水塚の文化研究会」発足

2年間に渡り活動してきた水塚調査員たちは、このまま解散するのはもったいないと5月22日に会合を開き、「水塚の文化研究会」として再スタートすることになりました。

新しいメンバーも加わり、水にかかわる文化やくらしの学習・研究活動、水塚を活かしたまちづくりの提案などを行う予定です。(担当：筑井 090-1990-4807)

4/24  
(日)

こどもとおとなの自然塾(1)

## 春の野草を見てみよう

前日は少し雨が降り心配されましたが、観察日当日は穏やかな良い天気にも恵まれました。

午前9時に柳瀬川サミット前に集まったのは総勢22名(うちこども3名)でした。志木市立教育サポートセンター前田所長の挨拶の後、早速観察を開始しました。

サミットの横から柳瀬川土手に渡ったところの駐輪場の脇に、「アリアケスミレ」が十数株花を咲かせており、野草の逞しさに驚かされます。

土手の上で一箇所だけ「カントウタンポポ」を見ることが出来ますが今年も健在で、すぐ近くの「セイヨウタンポポ」との違いを知ることが出来ました。

柳瀬川の河川敷の野草を見た後、富士見橋を渡り水谷たんぼに行きました。

水谷たんぼで以前は観察された「セリバヒエンソウ」や「クサノオウ」はすっかり見られなくなりました。また、たんぼの畦道がところどころ茶色に変色しており、おそらく除草剤によるものと思われまます。イネの生育に除草は欠かせず、農家

の方々のご苦労は大変ですが、何とか除草剤を使わない方法は無いのでしょうか。

今年は寒かったためか、植物の生育が遅れており「スイバ」などは十分に花が咲いていませんでした。

観察された野草は63種類(去年は65種類)でした。

(山崎光久)



(写真: 伊藤智明)

5/1  
(日)

黒目川ぶらり散歩「朝霞・東上線あたりから新座・妙音沢まで、春を歩く」

## 楽しく歩いた黒目川ぶらり散歩



妙音沢の清流(写真: 毛利将範)

でもすごい風でした。

さて、本日の会では、黒目川の新旧の改修の様子をつぶさに比較できること、斜面林および妙音沢の湧水の観察、そして野火止用水を歩くという三つの目的があります。

黒目川は、東武東上線鉄橋から黒目橋までの間、治水と環境に配慮した多自然川づくりにより自然

な流れが復元しており、川と親しみやすい環境が出来上がっています。両方を歩いてみて、上流のコンクリートによる護岸との違いを実感し、身近な川は是非このようであって欲しいと強く思いました。斜面林や妙音沢ではイチリンソウをはじめ種々の春の野草を観察でき、ミズキの花も満開でした。別の季節にまた訪れたいと思います。野火止用水を本流、平林寺堀、陣屋堀の分岐点から本流に沿って平林寺まで。黒目川からは相当坂を上ることとなり、川は低地を流れ、用水は利用しやすいように高いところを流している様子を実感しました。

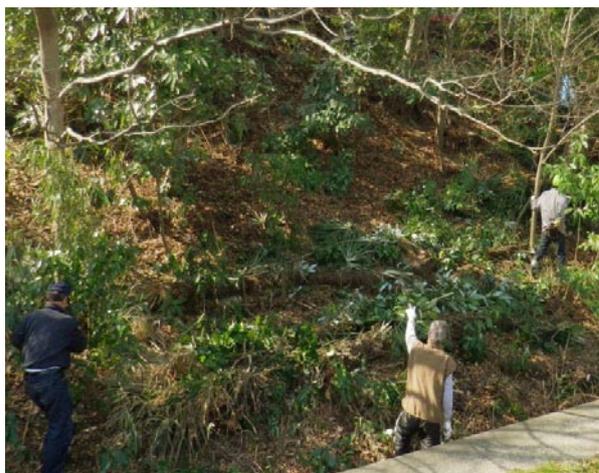
最後まで天候がもったのも皆さんの元気のおかげ。春の一日、皆さんとご一緒に楽しく歩くことが出来ました。  
(鈴木民雄)

## 斜面林の手入れと自然観察

当会では2か所の公園(斜面林)で志木市の「公園美化活動会」制度に基づいて日常的な管理作業を行っています。この制度は、その名の示すように清掃等の美化活動を主体として市民団体が公園の管理を行う制度で、私たちは自然環境の保全を主目的に取り組んでいるわけですが、市には市民団体が自然環境を管理する制度がないため、「公園美化活動会」に登録して活動しています。

『いろは親水公園こもれびのこみち』では、最近、主にシュロの伐採を続けてきました。最初はシュロの幹にぎっしり巻きついている繊維がのこぎりに絡み付いてしまい手こずりましたが、繊維をよく剥がしてから伐れば楽に伐れることがわかり、かなり伐採が進み、森が明るくなってきました。

『西原ふれあい第三公園』は公園化工事のため大分手が加えられた部分がありますが、昔からの斜面林景観に徐々になじんできています。林の中にはイチリンソウ・ホウチャクソウ・ジロボウエンゴサク・タチツボスミレ等の群落が定着してきました。



こもれびのこみち斜面林での作業

どちらの公園も共通の問題として、プランター・植木鉢の残土の投棄がひどいことがあげられます。近隣の居住者でしょうか、所構わず捨てられています。先日はイチリンソウ群落の真ん中にどっさり捨てられました。

どちらの現場も常にスタッフ不足です。環境を守るためにひと汗流しませんか。作業をすることは一番よい自然観察でもあります。(天田 眞)

5/6  
(金)

## 志木小学校「屋上ビオトープ」からの報告

志木小学校の屋上は約1120平方メートルあり、ビオトープゾーンと学級園ゾーンとに別れています。平成15年3月の竣工から8年が経過しましたが、毎年春と秋の年2回ビオトープの植生調査(4年前までは見学会として)を実施しています。

当初から観察された草本の種類は約180種類、樹木は約80種類になります。今から5年前は草本で120種類、樹木で約50種類でした。その



5月6日の調査と手入れの様子

の間鳥や風によって種子が運ばれ、種類が増えたのと、観

察の時期や気候によって新たなものが見つかったりしたため、5割近い増加になっています。もちろん一度の観察だけでその後は見られなくなった植物も多く含まれています。

今回の調査では、草本90種類、樹木49種類が観察されています。

ビオトープといえどもある程度は手入れをしないと一部の種類が増えすぎて、生物多様性を阻害します。一時大量に増えた要注意外来生物の「セイタカアワダチソウ」は減りましたが、代わって最近「メリケンカルガヤ」が目立つようになりました。水路には特定外来生物の「オオフサモ」も見られ、駆除が急がれます。

学校のクラブ活動「エコクラブ」の前などに、ビオトープの手入れを行っています。ご協力いただける方がいらっしゃいましたらご一報をお待ちしております。(山崎光久)



上野から尾久付近の古地図。明治20年頃と思われるが、地形は江戸末期とそれほど変わらないでしょう。尾久付近の荒川堤防は明治43年の大洪水時にも決壊しています。  
\*地図と次ページの錦絵資料提供：原昭二氏

# 小説『彰義隊』の中の 水塚の風景

筑井信明

『水塚の文化誌』の中にも書かれているように、荒川や新河岸川の改修が終わる昭和の初め頃まで、志木付近はもちろん、もっと下流の赤羽、浮間から三河島や根岸付近までの荒川(今の隅田川)流域は洪水の常襲地域でした。江戸市街を守るために、浅草付近につくられた日本堤までの低地帯が遊水池になっていたのです。

江戸や川越が繁栄した江戸時代においても、こうした荒川沿いの低地の大部分は、一部の街道筋や河岸場付近を除けば静かな田園地帯が広がり、増水時期には一面の泥海になるという光景が続いていたのでしょ。したがって、現代まで小説や映画、演劇の舞台になることもほとんどありませんので、それらを通じて当時の雰囲気を知ることがあまりできません。

そうした中で、吉村昭の小説『彰義隊』(新潮文庫 2004～2005年に朝日新聞連載)には、幕末に都内唯一の戦いになった彰義隊と明治政府軍による上野戦争とそれに続く寛永寺山主であった輪王寺宮一行の敗走を描く過程で、根岸、日暮里、三河島、尾久などの洪水地帯の光景が現実味を持って描かれています。

\*

吉村昭が、歴史小説の舞台となる場所や出来事の背景を詳細に調べる姿勢は最初のドキュメント小説である『戦艦武蔵』から一貫しています。さらに、あらためて文献や関係者からの取材も綿密

に行っていますが、この小説は、自身の生まれ故郷(東京都荒川区根岸)を舞台にしている初めての(そして最後の)作品でもあります。そういうことから、ここに再現された当時の天候や地形、風景はかなり正確なのではないかと考えられます。

この作家最後の小説ですが、それにふさわしいみごとな作品でもあり、畢生の名作とも評されています。中でも、輪王寺宮の上野寛永寺からの脱出とそれに続く雨と泥濘、洪水のなかで緊迫感をはらみながら静かに進行していく敗走場面はまさに名文の典型だと私は思います。そして、増水の中を、濡れながら歩き、村人の用意した船で移動し、蔵のなかに避難する。その中で悲劇の舞台として“水塚の風景”が鮮やかに浮かびあがっています。

\*

小説『彰義隊』は、表題のとおり、彰義隊の結成から上野戦争までを導入部としていますが、戦い自体はわずか数時間であっけなく決着します。その時、大村益次郎率いる朝廷軍は武蔵野台地の先端部分にある上野山の東北方面に兵を配置していませんでした。逃げ口を作り、包囲された兵士の必死の反撃を避けるためです。当然、敗れた彰義隊の兵士たちも輪王寺宮も、広大な低湿地が広



・日本堤の錦絵（歌川広重の「名所江戸百景」より）。「よしわら」の背景は広大な湿地帯という、幕末頃のこの地の様子わかります。

がっている、この方面から逃げることになります。小説の本当のテーマが動き出すのはここからです。

時は夕刻、降りしきる雨に紛れて、輪王寺宮一行数人は根岸から三河島村の名主の家に向かいます。上野戦争の起こったのは、二か月後には明治と改元される慶応四年(1868年)五月十五日です。この年は閏四月があったため、新暦では七月四日になるようです。いわゆる梅雨末期の豪雨が続いていたのです。小説の中ではこう語られます。

「その一帯は、梅雨時や二百十日前後の豪雨に見舞われる時期には出水するのが常で、どの家も三尺ほど盛り土した上に立てられている。(略)宮は竹林坊に導かれ、水の中をはなれると家の前の傾斜をのぼり、土間に入った」(第4章「落ちる」より)

そこに敗残の兵士が落ちのびてきます。宮一行が、行動の目立つ武士たちと一緒にいることは危険きわまりないことでした。すぐに家を出て、腰まで水につかりながら道はずれの植木職人の屋敷に向かいます。

「家の裏手に盛り土をした上に建てられた二階

建ての大きな納屋があり、七郎兵衛は、宮一向に中へ入るようながした。(略)宮は「薄暗い階段をふんで二階にあがった」(同)

これは水塚のことでしょう。しかし、ここでの潜伏も彰義隊の兵士らに察知されると、一行はさらに北の上尾久村に移ります。ますます水かさは深くなり、宮は植木師のひいてきた避難用の小舟に乗ります。途中、僧のひとりが、船を押しながら悲痛な声をあげる。東叡山寛永寺の寺坊が燃えているのです。当時、現在の上野公園内はすべて寛永寺の寺領でしたが、この戦いでことごとく焼け落ちています。

この名主の家にもやがて彰義隊の兵士が逃れてきます。夜更け、一行は密かにここも出なければなりません。そして下尾久村また上尾久村と隠れ場を求めて水の中を彷徨い、ようやく深夜になって、その地の村役の納屋で眠ることができます。

翌朝、宮一行は、寛永寺と関係の深い浅草合羽橋の東光院へ逃れます。翌日には市ヶ谷の自証院を経て、品川から榎本武揚率いる幕府軍艦「長鯨」に乗船、奥州方面に向かうことになります。

その後、輪王寺宮は奥州越列藩同盟の盟主になり、明治の代まで数奇な運命をたどることになります。最後まで間違いなく面白く、知られていない幕末史の裏面もよくわかります。ご一読をお勧めします。

\*

なお、この小説の中で、輪王寺宮の代理として幕府側との折衝にあたる寛永寺最高位僧侶である覚王院義観は、現在の朝霞市根岸台の出身者で、平成十一年(一九九九年)には根岸台の金剛寺で遷化百三十回忌法要が行われています。これも幕末の秘話なのですが、最後の覚悟の自死までよく描かれています。



『彰義隊』新潮文庫版のカバー

# 金子秀樹の 農業日記

< 10 >

今年の宗岡の稲作作業は、天候が比較的安定していたこともあり、3月にくろ付け、4月に水路掃除・代かきと順調に進み、田植えも例年通り5月の連休に行われました。

我が家の苗の生育も順調で、5月3日には無事田植えが終わりました。

また、今年は、苗が定着するまで(約10日程度)、カルガモが入りにくいように田んぼの水位を土が見える所まで下げました。これは、昨年、我が家の田んぼにカルガモに入られ、挿し苗を繰り返したので家族から不評だったためです。挿し苗作業は、結構重労働で2~3時間も続けると足元がふらついてきます。考えてみると昔の田植えは、全て手植えでしたので大変だったと思います。

今頃(5月末)になれば苗も定着しますのでカルガモが入っても、まったく問題はありません。かえってカルガモに入ってもらったほうが雑草が生えにくいので私としては歓迎しています。カルガモも、田植えから2週間程度田んぼに入るのを我慢してもらえれば、害鳥としてこの辺りで嫌われることが無くなるのですが。

さて、ここで私が今年、堤外で農作業をしている時に見た野鳥についてちょっと書きたいと思います。

2月には、2年ぶりにタゲリを見ました。曇っていたため、羽の緑があまり映えて見えませんでしたでしたがきれいな鳥です。4月には、チョウゲンボウと思われる鳥を2度見ました。1度目は、4月初めトラクターの2~3m先の小鳥を捕まえて行きました。初めてのことであったので何が起こったのか、始めは判りませんでした。2度目は、4月末に10mぐらい離れた畦で何かを食べている所を、カラスが餌を横取りしようとして威嚇していたところでした。また先日は、キジも見ました。キジは、



田んぼの中のカルガモ

警戒心が強く堤外で鳴き声は、よく聞くのですが見ることはまれです。

それに引き換え、農作業中のトラクターには、タゲリを始め、セキレイ・ヒヨドリ・ツグミ・タヒバリ等が寄ってきます。先日もアマサギが4羽寄ってきてカエルやザリガニなどをついばんで行きました。これからは、葦も伸びてきますのでオオヨシキリの鳴き声も一段と大きくなる堤外地域です。



キジが出てきた葦原



現在の田んぼのようす

《鳥類》

- ノスリ (1) → 3月11日 (金) 水谷田んぼ (富士見市) [山崎光久]  
セッカ (1) → 3月20日 (日) 水谷田んぼ (富士見市) [山崎光久]  
タシギ (1) → 4月17日 (日) 柳瀬川・栄橋上流 [柳瀬川ウオッチング]  
キジ (♂1) → 4月17日 (日) 柳瀬川・志木中前の富士見市側の土手 [柳瀬川w]  
コチドリ (1) → 5月15日 (日) 柳瀬川 (高橋と栄橋の間) [柳瀬川w]  
コガモ (14) → 5月15日 (日) 柳瀬川 (高橋と栄橋の間) [柳瀬川w]



ノスリ (3/11) [山崎光久]

《魚類》

- マルタ (7) → 4月17日 (日) 柳瀬川・高橋下流 [毛利将範]  
メダカ (50~60) → 4月17日 (日) 水谷田んぼ (富士見市) の水路 [柳瀬川w]



セッカ (3/20) [山崎光久]

《は虫類》

- ヒバカリ (1) → 5月4日 (水) 西原第3公園斜面林で。準絶滅危惧種。公園化工  
事で絶滅したかと心配していたが4年ぶりに発見 [天田眞]  
スッポン (1) → 4月17日 (日) 柳瀬川・栄橋上流。体長 35cm ほど [毛利将範]

《昆虫》

- コムラサキ (1) → 5月22日 (日) 西  
原第3公園斜面林で。準絶滅危惧種 [天  
田眞]



メダカの群れ (4/17) [毛利将範]



コムラサキ (5/22) [天田眞]



ヒバカリ (5/4) [天田眞]

《植物》

- カントウタンポポ → 4月10日 (日) 上  
宗岡2丁目の佃堤 [毛利将範]

環境 ひとくちメモ (20) 伊藤 智明

「災害時の環境問題」

2011年3月11日に起きた東日本大震災は未曾有の大災害となりました。また地震による巨大津波や原発事故の発生など、これまでの災害対策の想定では考えられない事態となりました。

こうした中、被災地により発生する環境問題も取り上げられています。「放射能汚染」や「電力不足」などエネルギー問題は周知のとおりですが、その他にも「大量に発生する廃棄物・排水」、「アスベスト (石綿) や油・有害物質等の飛散・汚染」、「臭気 (悪臭)」など多岐にわたります。

現在はまだ応急的な対応だけで精一杯

ですが、今後復興をしていく上でこうした環境問題も課題になってきます。被災地だけでなく、各地域で協力しながら対応していくことが大切だと思います。



画像：(財) 消防科学総合センター「災害写真データベース」より

詳細は以下のホームページをご覧ください。  
環境省「東日本大震災への対応」<http://www.env.go.jp/jishin/index.html>

## ☆会員状況

2011年度更新済み会員 (5/24 現在)

個人正会員 34

団体正会員 1

賛助会員 1

\*以下の方に寄附をいただきました。

ありがとうございます。

細田進様 尾崎健市様 西川武重郎様  
岩上弘様 上田勲様

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお祈りします。

★会費の有効期間は、宛名シールに書いてありますので、チェックしてください。



## ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

## ■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

## ■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域 NPO 連絡会

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

情報満載!  
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

## 2011年度 役員

理事	天田 眞	再任	代表理事
	飯塚 伸夫	再任	
	伊藤 智明	再任	事務局長
	加藤 健二	新任	
	金子 秀樹	再任	
	小島 敏文	再任	
	毛利 将範	再任	副代表理事/広報部会長
	望月 仁	再任	
	山口 美智江	再任	副代表理事/まちづくり部会長
	山崎 光久	再任	水と緑部会長

## 監事

	宇津木 美恵子	再任
	松田 勝正	再任

## 2011年度 予算 (2011年4月1日～2012年3月31日)

特定非営利事業に係る事業 (今年度の収益事業計画はありません)

●収入

(単位:円)

科目	予算額	備考
1 会費等収入	154,600	
個人会費	129,600	
団体会費	10,000	
賛助会費	15,000	
2 事業収入	205,000	
保全・管理・創出	40,000	公園美化活動報奨金
調査・研究	100,000	生き物調査等
観察会・学習・教育	50,000	講師謝金等
出版・広報	0	
エコツアー	15,000	参加費等
提言	0	
3 助成金収入	90,000	
行政	90,000	埼玉県NPO基金
その他	0	
4 雑収入	60,000	
寄付金等	60,000	
その他	0	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	509,600	
前期繰越金	585,310	
収入合計	1,094,910	

●支出

1 事業費	289,000	
保全・管理・創出	130,000	外来植物駆除、里山管理等
調査・研究	49,000	生き物調査等
観察会・学習・教育	49,000	自然塾・総合学習等
出版・広報	40,000	通信発行、HP運営、活動紹介等
エコツアー	15,000	ぶらり散歩等
提言	0	
保険料	6,000	
2 管理費	170,600	
租税公課	0	
旅費交通費	2,500	エコシティ志木通信を除く
通信運搬費	4,000	
消耗品費	2,000	
給与手当	0	
事務局経費	140,000	事務局分散運営費
印刷費	1,500	エコシティ志木通信を除く
参加団体会費	13,000	4団体分
会議費	5,000	運営会議会場費
雑費	2,600	
3 予備費	50,000	
当期支出合計	509,600	
当期収支差額	0	
次期繰越金	585,310	

植物食の昆虫の中で、チョウ・ガの幼虫やハムシ等が葉を食べるのに対し、意外に多いのが植物の汁を吸うもので、カメムシ目（半翅目）に分類されます。カメムシ・セミ・アブラムシ・カイガラムシ・ウンカなど様々ありますが、動物の汁を吸うサシガメ等もこの中に分類されます。

その中で、これから初夏になると身近な樹木でよく目にするのがアオバハゴロモです。幼虫は6～7月によく見られ、数匹が群生し、体表と周囲の活動範囲に自ら分泌した真っ白い綿状の蠟物質を付着させます。この蠟は樹液の中の糖分から生成したもので、一部のアブラムシやカイガラムシなどで見られるものと同じです。全体は真っ白でよく目立つのですが、幼虫は綿の中に同化してしまい良く見ないと見つか

りません。7月下旬には成虫になりますが、体長1cm位の淡い青緑色で、枝に縦に整列して止まります。幼虫・成虫とも手を近づけると枝をまわる様に歩いて逃げ、さらに近付くとピョンと跳ねて逃げます。

数は少なくなりますが、ベッコウハゴロモやアミガサハゴロモも見つかります。成虫の体長はアオバハゴロモとほぼ同じ位ですが、翅を横に広げてとまるので大きく見えます。幼虫の形が大変ユニークで、尾部から蠟物質でつくった細い多数の針（たんぽぽの綿毛のような）を放射状に広げ、後方上部から見ると体全体を覆って隠れています。写真はアミガサハゴロモの幼虫ですがベッコウハゴロモも形は同じで模様と目の形が違います。



【1】アオバハゴロモ幼虫、周囲に白い綿状物質を付着している



【2】アオバハゴロモ幼虫、実際は周囲の綿状物質に同化している



【3】羽化したばかりのアオバハゴロモ成虫、枝に縦に並んでとまる



【4】アオバハゴロモ幼虫と成虫、羽化の時期には一緒に見られる



【5】ベッコウハゴロモ成虫



【6】アミガサハゴロモ成虫、羽化直後で黄色の粉に覆われている



【7】アミガサハゴロモ成虫、粉がとれると黒色でつやがある



【8】アミガサハゴロモ幼虫、ベッコウハゴロモも同様な形



【9】アミガサハゴロモ幼虫を上から見る



## 地球と日本の自然（1）

加藤 健二

まったく大きなテーマを掲げました。

昨年10月、名古屋で「生物多様性条約」会議（COP10）が1ヶ月にわたって開催され、また12月にはメキシコのカンクンにおいて「気候変動枠組条約」会議が開かれました。今年は「国際森林年」に設定されていて、林野庁を中心に年間で活動が行われます。これ以外にも地球環境に関する国際的会議では「砂漠化対処条約」会議もあり、この内京都議定書でも良く知られる「気候変動枠組」については地球温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>削減目標が決められています。

このように私たちをとりまく環境については、地球規模での国際的活動が頻繁に行われるようになってきました。「地球と日本の自然」とは大きなテーマなのですが、私たち人間の将来を考える上で、身近な自然と地球規模の環境の繋がりを考えることは不可欠であると思います。何回か自然に関するテーマを選んで、一緒に考えていければ幸いです。

さて、科学の進歩は人間の生活を便利にし、どのような問題でも解決していける無限の力を保持したように見えます。しかし、現実には地球は有限でありますし、かつ自然界にはまだまだ人間には不明である事象がたくさん隠れています。「地球温暖化」「森林破壊と砂漠化」「生物絶滅危惧種

の増大」などなどのトピックスを加え、問題提起をし、皆様のご批判もいただきながら一緒に考えていきたいと思えます。

具体的には、できるだけ身近な次の四つのテーマを選んで、考えたいと思っています。

まず、「雑木林と里山」について、どのような自然環境であれば生物多様性をもたらすのか、を見ていきたいと思えます。たとえば昨年名古屋COP10では“SATOYAMA イニシアティブ”と言う表題で国際的活動の指針が採択されました。

次に、「ワシントン条約」をテーマに、世界の絶滅危惧種と生物輸入大国である日本について考えていきたいと思えます。

三番目のテーマは「海の幸」です。日本は川・海など豊富で変化に富んだ自然環境にあつて、たいへん豊富な魚介類を食べることが可能です。しかし、これはクジラ・まぐろ等々、自然環境と人間の食料問題が直接ぶつかりあう問題で、まさに自然の恵みに対する人口増大による食料問題であることがわかります。

最後のテーマは、難しい課題ですが「地球温暖化や河川・大気汚染」など人類の営みと自然の許容性（持続的な自然環境の可能性）をとり上げたいと思っています。

### 編集後記

◇今号の表紙の記事は、埼玉県生態系保護協会・前富士見支部長の須藤さんを書いて頂きました。ナマズの集団産卵、ぜひ立ち会いたいものです。

◇裏表紙では、新理事・加藤さんの新連載が始まりました。地球レベルの環境とみなさんの身の回りの自然と、その繋がりを考えてみませんか。（ふくろう）

### エコシティ志木通信

第62号 2011年6月1日

〈発行〉

### NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)



エコシティ志木  
の

イベントカレンダー

だれでも  
参加できるよ!



2011年

6月→9月



5月1日「黒目川ぶらり散歩」のようす  
天気予報は雨でしたが、なんとか全行程を楽しむことができました

会員募集中



親子で自然を楽しみたい人  
地域の環境を守りたい人  
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108  
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>  
【Eメール】 [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)

